

# 第2節 地域の研究

## MEMO

みんなで考えてみよう!

諫早市ができた1940年からの人口の変化を調べてみよう。

みんなで考えてみよう!

人口や産業(工業出荷額など)を調べるときは、市役所を訪れてみよう。



## 1 諫早市の移り変わりの研究

### (1) 人口の増加と工業出荷額

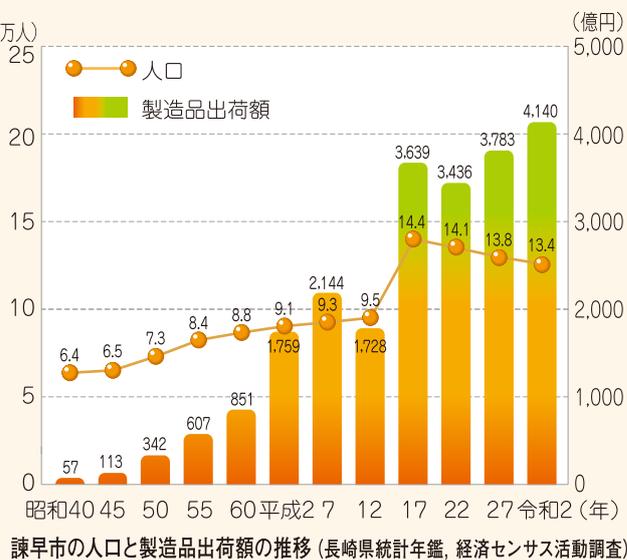
#### ア 人口の変化

諫早市は、市制がしかれた1940(昭和15)年当時の人口が約44,000人で、のどかな田園都市であった。1970(昭和45)年ごろから、西諫早ニュータウン建設などがあって、長崎市のベッドタウンとして人口が急増したことで、2005(平成17)年3月の市町合併により市域が拡大したことにより2020(令和2)年現在では、市制がしかれた当時の3倍を超える人口となっている。

#### イ 製造品出荷額の変化

諫早市では、今から20年前までは、農業を中心とする第1次産業の出荷額が最大であったが、その後は、第2次産業の製造品出荷額が第1位をしめるようになった。

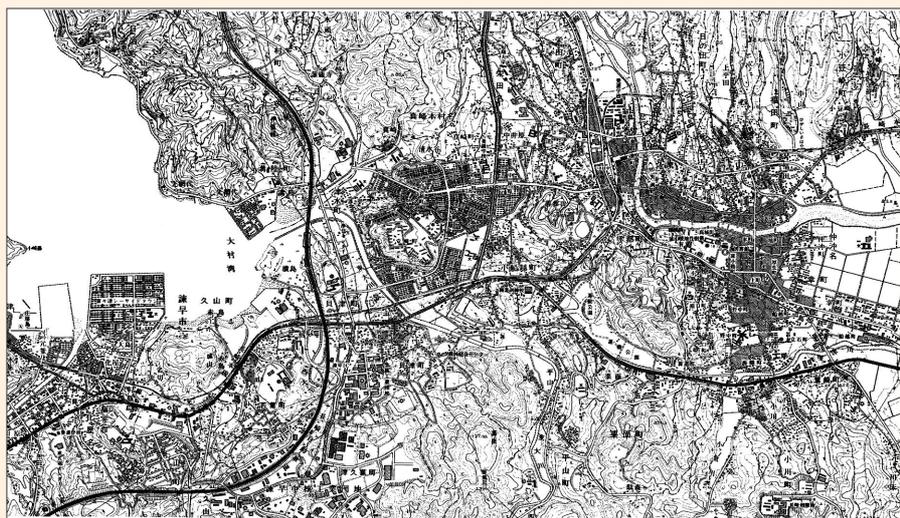
これは、諫早中核工業団地の生産が急激に伸びたためである。業種別にみると、コンピュータ、航空機器などを支えるICの生産をはじめとする工場の進出がめざましい。



### (2) めぐまれた条件

諫早市は、ほぼ県の中央部に位置し、陸上交通の要所になっている。鉄道をはじめ、34号線や57号線などの国道や長崎自動車道が通り、長崎空港も比較的近いので、人の交流や物資の輸送が便利である。また、広い土地と豊かな水にめぐまれ、工業用地や住宅用地の確保がしやすい。

## MEMO



諫早市街地図

(提供:国土地理院)

## 身近な地域の学習

**課題** 私たちの住んでいる諫早市の移り変わりについて調べよう。

## 〔1〕 中島さんの班の人口調査

中島さんたちは、夏休みのある日、諫早市の人口の増加についてくわしく知るために、諫早市役所を訪ねた。

みんなで考えてみよう!

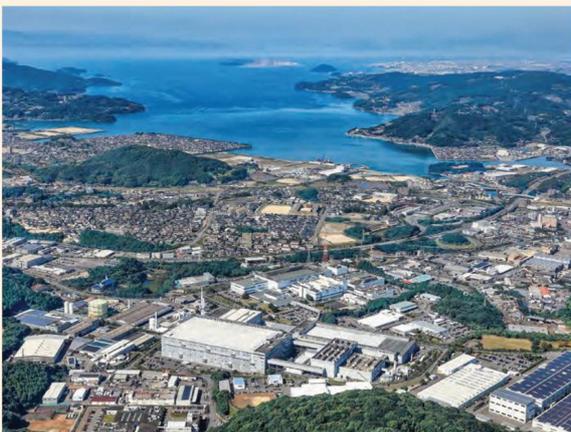
地図を参考にして人口増加の原因や工業発達の要因を考えてみよう。

## 調べてわかったこと

- ①1969(昭和44)年,長崎国体の主会場となった県立総合運動公園が完成し,道路が整備され周辺部の宅地化が進んだ。
- ②1970年代には,大規模な西諫早ニュータウンたいきほの建設で人口が急増した。

## 〔2〕 上田さんの班の工業調査

上田さんたちは、工業について調査するため、市役所の企業誘致課を訪ね、係の人の説明を聞いたり、資料で調べたりした。



諫早中核工業団地

(提供:諫早市)

## MEMO

## 調べてわかったこと

かつて、諫早市の工業は、でんぷん、みそ、しょう油などの食品工業が中心であった。1970年代になると、長崎県、諫早市、地域振興整備公団が、三菱重工業長崎造船所の関連企業が集まった貝津工業団地をもとに諫早中核工業団地の建設を計画し、用地造成をおこない、企業をまねいた。その結果、次々と企業が進出して諫早市の製造品出荷額は急速に伸びた。現在では、長崎市について県内第2位の出荷額である。

諫早市に工業団地が建設された理由としては、

- ①広い用地がある。
- ②交通の便利がよい。
- ③工業用水が確保できる。
- ④周辺の市も含めて、労働力が確保しやすい。

などがあげられる。

工業製品の出荷先は、主に長崎市、福岡県、大阪府、東京都で、大型トラックによる輸送が中心である。

## ◎諫早中核工業団地のあらまし

- |      |         |       |         |
|------|---------|-------|---------|
| ①所在地 | 諫早市津久葉町 | ③進出企業 | 約140社   |
| ②総面積 | 226ha   | ④就業人口 | 約8,000人 |
- (平成29年11月現在 諫早中核工業団地自治振興会)

## 〔3〕川口さんの班の聞き取り調査

私たちの班は、自分たちが住んでいる地域の開発について調べることになったので、父に相談した。父は、「おじいちゃんの方がよく知っているよ。」と言ったので、祖父に聞くことにし、真崎町の祖父の家（西諫早ニュータウン）に出かけた。



MEMO

昔と今の写真を比べてみると違いがよくわかるね。



西諫早ニュータウン開発前の姿[1966(昭和41)年]

(出典:国土地理院ウェブサイト)

祖父の話でわかったこと

- ①西諫早ニュータウンの大部分は、30年ばかり前まで山と農地であった。
- ②1969(昭和44)年ごろから、ニュータウン開発計画によって住宅地の造成が始まった。
- ③西諫早ニュータウンには駅がつくられ、交通も便利になり、多くの人に住むようになった。



2006(平成18)年の西諫早ニュータウン

(出典:国土地理院ウェブサイトのデータに一部追記)